

前期は売上高、営業利益が過去最高 新型機器の開発や海外事業に意欲

プライミックス



古市社長

プライミックスは、主力の化粧品事業でOEMメーカーを中心に国内での受注を伸ばしている。海外での受注も順調に進んでおり、業績は好調だ。

2012年3月期の売上高は70億9900万円、営業利益は7億1900万円となり、いずれも過去最高額となった。

や、中国をはじめとする海外生産の好調ぶりも業績を押し上げる要因になったという。

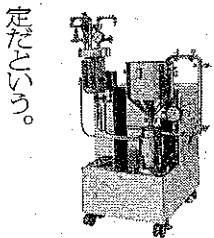
その結果、前期で終了した中期3カ年計画の目標数値は達成し、今期から新たな中期経営プランをスタートさせている。

この計画では、新型機器の開発に注力する姿勢を打ち出している。

CIP/SIPに対応した新型の真空乳化工「クリアスタア」は、現在売り出し中の新製品の1つだ。新型高速攪拌部の作動により、従来のミキサーよりも微粒化が可能になるといふ。

さらに、米ROSS社との技術提携のうえ、微粒化に関する独自のノウハウを注入した「ハイシエアミキサー」は、最高速度が55m/secに達する。

「クリアスタア」は現在の100L型よりも容量を抑えた製品を開発中で、今年には完成する予



最高速度が55m/secの「ハイシエアミキサー」

定だといふ。

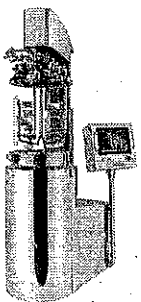
古市尚社長は、国内における今後の化粧品事業について「より少量多品種や、菌の問題を解決できる新型機器の開発が求められる」と製品開発に意欲を見せている。

また、古市社長が「ドメスティック企業からグローバル企業へ」と強調するように、海外での受注を伸ばしていくことも重要施策の1つに掲げる。中国では、上海に拠る生産拠点を現在の約3倍の規模に拡大し、1月には完成させる予定だ。

中国国内における日系企業や外資系メーカーからの受注増に備えることもに、タイやベトナムなどへの輸出もカバーできるとしている。

さらに、昨年には韓国に現地企業との合弁会社を設立。今年以降、販売を本格化させる考えだ。一方、同社の研究開発拠点「乳化分散技術研究所」を通じた取り組みで

は、1975年から隔年で開催している「攪拌技術セミナー」を今年10月に開催する。攪拌技術に



CIP/SIP対応の新型真空乳化工「クリアスタア」を行う。

詳しい学者や研究者を講師に招き、顧客の総勢300人ほどを対象